

## 10. 社会貢献活動

### 10-1: ホンダの社会貢献活動

ホンダは創業以来、商品や技術を通じて社会やお客様にさまざまな喜びを提供してきました。また、「企業は地域に根付き、地域と融合した存在でなければならない」という考えのもと、まだ創業期だった1960年代に、地域とのつながりを大切にされた社会貢献活動を開始しました。そして現在も、「世界中の人々と喜びを分かち合い、存在を期待される企業」を目指し、世界7地域でさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。また、その地域の実情に応じた取り組みのサポートも進めています。これからもホンダは、お客様や地域の人々とコミュニケーションを図りながら、社会貢献活動を展開していきます。

### 10-2: 社会貢献活動の基本的な考え方

ホンダは1998年に「Honda社会活動理念・活動指針」を制定し、2006年には世界中のホンダが「夢のある明日の社会づくり」に向けて、より活動の統一感を図るためのグローバル方針を制定しました。2018年には、時代の環境変化に応じてグローバル方針を改定し、2030年ビジョン「すべての人に『生活の可能性が広がる喜び』を提供」の実現に向けた展開をしています。「人間尊重」と「三つの喜び」の基本理念のもと、世界中の人々の生活がより豊かになり、その喜びを分かち合えるよう、従業員一人ひとりの主体的な取り組みをグローバルで加速させていきたいと考えます。



### 10-3: 主な活動内容

#### 日本 地球環境を守る活動

##### 全国のホンダグループで展開する「Hondaビーチクリーン活動」

2006年、ホンダは「素足で歩ける砂浜を次世代に残したい」という想いから、砂浜の清掃活動「Hondaビーチクリーン活動」を開始。漂着ゴミで溢れる砂浜を「技術の力でなんとかしてきれいにできないか」という想いで独自開発したビーチクリーナーを使用したこの清掃活動は、2022年で16年目を迎えました。2022年は、コロナ禍の影響があったものの、全国17カ所(17都道府県)で活動を行いました。ホンダ従業員やOBで始めたこの活動は、現在では全国のホンダグループや地域の皆様へ協力の輪が広がり、年間参加者は7,000人を超える活動へと発展しています。これまでに全国各地の砂浜で活動を行い、実施回数は406回、回収したゴミは総量約520tにのぼります。



砂中のゴミを振り起こし回収できるビーチクリーナー

#### 北米 次世代育成

##### 黒人学生の教育支援

アメリカンホンダモーターカンパニー・インコーポレーテッド(AHM)は、30年以上にわたり、Honda Campus All-Star ChallengeやHonda Battle of the Bandsなどの取り組みを通じて、歴史的黒人大学(HBCU)の学生の成功と夢を支援しています。これらのプログラムは、HBCUの学生にとって、他のHBCU学生の仲間との出会いや交流など、忘れられない体験や機会を提供しています。AHMは20万人以上の学生の人生に影響を与え、2022年度には、HBCUの教育プログラムや施設改善を支援するために45万ドル以上(現在までに1,400万ドル以上)の助成金を授与しています。また、AHMは、Thurgood Marshall College Fundと提携し、エンジニアリング・サプライチェーンマネジメント・製造関連分野で教育を受けるHBCUの学生を支援するために、毎年奨学金を提供しています。



HBCUの学生の様子



#### 南米 交通安全

##### チリとペルーにおける交通安全講習の取り組み

チリのホンダモーター・デ・チリ・エス・エーは、サンティアゴ市において、人々の交通安全を促進するために、プロのインストラクターの指導によるバイクや安全装備を備えた二輪車安全運転講習を無料で実施しました。2022年度は、ホンダのボランティア7人が1,384人を指導しました。活動の様子はSNSを利用しライブ配信され、5,791の「いいね!」がつかまりました。また、ペルーのホンダ・デル・ペルー・エス・エーでも二輪車安全運転講習を実施し、ホンダのボランティア25人が実技と理論の両面から講習を行い、418人の地域住民やお客様を指導しました。



チリでの安全運転講習の様子



ペルーでの安全運転講習の様子

#### 欧州 地域共生・災害支援

##### トルコ・シリア地震への支援を実施

2023年2月6日に、トルコおよびシリアの国境付近で発生した地震で被災した地域への支援として、欧州地域本社であるホンダモーターヨーロッパ・リミテッドから200台以上の発電機を寄贈しました。また、ホンダターキー・エー・エスからは、約2,000万円の緊急支援物資や人道支援などを行いました。ほかにも本田技研工業(株)からは、日本赤十字社を通じて救援金1,000万円を寄付、アメリカンホンダモーターカンパニー・インコーポレーテッドおよびホンダ・ティベロップメント・アンド・マニュファクチャリング・オブ・アメリカでは、従業員募金を実施しており、会社からのマッチング寄付を行いました。



現地で支援を行う様子

アジア大洋州 次世代育成支援

インドの女学校設立

インドでは、農村部に人口の60%以上が暮らしており、村の発展のためには次世代人材の育成が必要不可欠です。政府の調査では、1クラスの半数の学童が読み書きができないことが判明しており、教育環境の課題がありました。ホンダカーズインド・リミテッドでは、四輪完成車工場のあるラジャスタン州タブカラにおいて、男性にくらべ教育の機会が限られている女生徒を対象とした学校の設立を行いました。土地探しから始め、新しい建物は広い教室・衛生環境の整った食堂やトイレなどを完備し、2020年3月に完成しました。教育も、STEM教育を取り入れた授業や、道徳・リーダーシップ研修など幅広い分野に力を入れています。これまでに総額約8,300万ルピーを支援し、2022年度には1,253人の生徒が在籍しています。



タブカラにあるGirls' Senior Secondary School



文部大臣からの表彰の様子



植林活動の成果で緑が広がった大地

中国 地球環境を守る活動

深刻な砂漠化が進む内モンゴル自治区における長期植林活動

中国のホンダグループは、2008年から15年間、内モンゴル自治区において植林活動を行い、これまで2,000人以上のホンダ従業員が参加し、約1,433万m<sup>2</sup>以上の面積に196万本の植樹を行いました。長年、気候や土壌の特徴を研究し、乾燥地での植林の知識を蓄積することで国の植林生存率の基準をはるかに超えて満たすことができました。同プロジェクトは過去3期15年にわたって実施され、第4期目は2023年に開始し、5年間で約333万m<sup>2</sup>の植林面積を目標としています。森林面積の増加・水や土壌の損失の抑制・地域環境の改善をめざし、地方、さらには華北地域の持続可能な開発に寄与することを目的としています。

アフリカ中東 地域共生

アラブ首長国連邦経済特区におけるフードプログラム

ジュベル・アリ・フリーゾーン(アラブ首長国連邦にある経済特区)で活動している企業は、約9,000社あり、30,000人以上が労働者用宿泊施設に滞在しています。このコミュニティに属している、ホンダ・ガルフ・フリーゾーン・エスタブリッシュメントでは現地の産業やビジネスをサポートするために尽力されている方々にお礼をしたいと考え、2022年7月、社内で寄付を募り、有志の従業員が近隣の労働者用宿泊施設へ113食分の昼食を配布しました。こうした活動は、存在を期待される企業を目指して今後も取り組んでいく予定です。



従業員が食料を配布する様子

10-4：社会貢献活動変遷

- 1960 ・埼玉製作所、鈴鹿製作所にて工場見学の受け入れ開始
- 1969 ・米国・ミニバイクを通じた青少年教育サポート「NYPUM」支援開始
- 1974 ・(財)国際交通安全学会(IATTS)設立
- 1976 ・「ふるさとの森 実行委員会」発足
- 1977 ・(財)本田財団設立
- 1978 ・ホンダ太陽設立
- 1980 ・ベルギーホンダ財団設立
- 1981 ・エコノパワー燃費競技大会開始(現: Hondaエコマイレレッジチャレンジ)
- 1984 ・アメリカン・ホンダ財団設立
- 1985 ・希望の里ホンダ設立
  - ・将来のASEAN諸国の発展に貢献できる若者の国際研修「IATTSフォーラム」開催
- 1986 ・熊本製作所「ふるさとの森づくり」が工場緑化推進全国大会にて通商産業大臣賞受賞
- 1988 ・熊本製作所「ふるさとの森づくり」が内閣総理大臣賞受賞
- 1990 ・「大分国際車いすマラソン大会」協賛開始
- 1991 ・アメリカン・ホンダ 小児脳腫瘍基金チャリティツーリング「Ride for Kids」特別協賛
- 1993 ・「北海道南西沖地震」災害支援として、ホンダ製品寄贈
  - ・人々に驚きと感動を与える地域活動「熱気球ホンダグランプリ」開始
  - ・アメリカン・ホンダ 子どもたちの個性や発想を大切に「イーグルロックスクール」設立
- 1995 ・「阪神・淡路大震災」災害支援として、ホンダ製品(発電機・二輪車)寄贈、義援金を寄託
  - ・「Honda Cカード」日本ユニセフ協会及び日本赤十字社へのチャリティ活動開始
- 1997 ・社会活動推進室設置
  - ・「ナホトカ号重油流出事故」災害支援としてホンダ製品寄贈
- 1998 ・社会活動理念制定
  - ・次世代ものづくり支援として「DREAM CUP ソーラーカーレース」特別協賛(2021年まで)
- 1999 ・埼玉にて「水源の森保全活動」開始(現: 森林保全活動)
  - ・交通安全の基本を楽しく学ぶ「交通安全キャラバン」開始
  - ・国際交流を中心とした子どもたちへの体験の場「H-Kidsプロジェクト」開催
- 2000 ・事業所での活動活性化に向けた「社会活動連絡協議会」発足
  - ・中国ホルチン沙漠の植林活動「喜びの森計画」開始(2006年まで)
  - ・「カンボジア・タイにおける地雷除去活動」後方支援として、ホンダ製品(発電機・二輪車)寄贈
  - ・自然から環境を楽しく学ぶ出前授業「環境わごん」開始
- 2001 ・タイ「森林保護のための象パトロール」開始
  - ・学生への技術伝承を行うホンダOB「マイスタークラブ」設立、学生フォーミュラ支援活動開始
- 2002 ・全国の小学生対象「子どもアイディアコンテスト」開始
  - ・NHK主催「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」特別協賛開始
  - ・ハローウッズ「発見・体験学習」「30泊31日キャンプ」開始
  - ・「ホンダ・タイ基金」設立
- 2003 ・(公社)自動車技術会主催「学生フォーミュラ日本大会」協賛開始
  - ・学生スポーツの振興に寄与する「東京箱根間往復大学駅伝競走」協賛(2010年まで)
  - ・事業所水平展開プログラム開始(環境わごん・交通安全キャラバン・水源の森保全活動)



2004

- ・ブラジル アマゾンの大切さを伝える「森林保護区見学ツアー」開始
- ・地雷除去プロジェクト「カオ・ブラヴィーハン地球復興支援」参加。ホンダ製品(二輪車・発電機・刈払機)寄贈
- ・「新潟県中越沖地震」災害支援として、ホンダ製品(発電機・投光器・除雪機)と支援物資寄贈、義援金を寄託
- ・「スマトラ島沖地震・津波災害」災害支援として、ホンダ製品(発電機)と支援物資寄贈、日本赤十字社に義援金を寄託

2005

- ・「スマトラ島沖地震・津波災害」余震に対し、支援物資寄贈、義援金を寄託

2006

- ・独自開発「牽引式ピーチクリーナー」による「Hondaピーチクリーン活動」開始
- ・社会活動「グローバル方針」制定
- ・オリジナルのダンボールクラフトでモノづくりの楽しさを伝えるドリームハンズ開始

2007

- ・海外初となるピーチクリーン活動をポルトガルにて実施
- ・「新潟県中越沖における地震被害」災害支援として、新潟県にホンダ製品(二輪車・四輪車)寄贈、日本赤十字社に義援金を寄託
- ・「バングラディッシュ南西部におけるサイクロン被害」災害支援として、日本赤十字社に義援金を寄託

2008

- ・「中国四川省における大規模地震被害」災害支援として、ホンダ製品(発電機・四輪車)の寄贈、と中国紅十字会・四川省紅十字会・日本赤十字社に義援金を寄託
- ・「ミャンマーにおけるサイクロン被害」災害支援として、タイ赤十字社・日本赤十字社に義援金を寄託
- ・中国のホンダグループ全体で「内モンゴル植林活動」開始

2010

- ・「中国西部の青海省玉樹チベット族自治州玉樹県を震源とする地震被害」災害支援として、中国復興支援団体・日本赤十字社に義援金を寄託
- ・「パキスタンにおける大雨による洪水被害」災害支援として、救援物資寄贈、義援金を寄託

2011

- ・「ニュージーランド南島、クライストチャーチ市付近における地震被害」災害支援として、日本赤十字社に義援金を寄託
- ・「東日本大震災被害」災害支援として、岩手県・宮城県・福島県・災害対策本部などへホンダ製品(発電機・二輪車など)寄贈、日本赤十字社に義援金を寄託
- ・中国の合弁会社14社の従業員が内モンゴル自治区興和県で植林活動を実施
- ・「タイ大雨による洪水被害」災害支援として、ホンダ製品(パワープロダクツ)寄贈、タイ赤十字社・日本赤十字社に義援金を寄託
- ・東日本大震災支援「ASIMO特別授業」開始(2016年まで)
- ・災害支援 自主ボランティアプログラム開始

2012

- ・「九州北部で発生した豪雨被害」災害支援として、熊本県・大分県・福岡県にホンダ製品(高圧洗浄機)寄贈、社会福祉法人中央共同募金会に義援金を寄託
- ・「フィリピンのマニラ首都圏などにおける豪雨被害」災害支援として、義援金を寄託
- ・「東日本大震災」災害支援として、福島県特産品ホンダ従業員向け販売、手仕事支援実施(2012年まで)
- ・「中国 四川省における地震被害」災害支援として、義援金を寄託
- ・「山口県および島根県における豪雨被害」災害支援として、山口県・島根県にホンダ製品(高圧洗浄機)寄贈
- ・「伊豆大島における台風26号による暴風・大雨被害」災害支援として、東京都福祉保健局に義援金を寄託
- ・「フィリピンにおける台風被害」災害支援として、義援金を寄託

2014

- ・地域と共生し、人々が喜ぶ新たな森を創造する「HondaWoods」開始(「ふるさとの森づくり」を現在の地域環境に合わせて内容を変更)
- ・「長野県および山形県における台風8号の接近による暴風・大雨被害」災害支援として、長野県・山形県にホンダ製品(高圧洗浄機)寄贈
- ・「中国 雲南省における地震被害」災害支援として、ホンダ製品(発電機・水ポンプ)寄贈、義援金を寄託
- ・「京都府および兵庫県における大雨被害」災害支援として、京都府・兵庫県にホンダ製品(高圧洗浄機)寄贈
- ・「広島県における大雨被害」災害支援として、日本赤十字社 広島県支部に義援金を寄託

2015

- ・TOMODACHIイニシアチブとホンダが「TOMODACHI Honda文化交流プログラム2015」を開始(2019年まで)
- ・「ネパールにおける地震被害」災害支援として、日本赤十字社・在タイ ネパール大使館・在インド ネパール大使館に義援金を寄託
- ・「茨城県・栃木県・および宮城県における台風18号による暴風・大雨被害」災害支援として、ホンダ製品(高圧洗浄機)寄贈、日本赤十字社に義援金を寄託

2016

- ・「熊本地震被害」災害支援として、ホンダ製品(二輪車・四輪車・発電機)寄贈、熊本県に義援金を寄託
- ・「北海道・岩手県 台風10号による大雨被害」災害支援として、北海道・岩手県にホンダ製品(高圧洗浄機)寄贈
- ・北米・従業員ボランティア活動「Honda Week of Service」開始

2017

- ・「九州北部豪雨被害」災害支援として、ホンダ製品(高圧洗浄機)寄贈、日本赤十字社に義援金を寄託
- ・従業員が気軽に参加できるボランティア活動「ぶちぼら」開始

2018

- ・社会貢献活動「グローバル方針」改定
- ・「平成30年7月豪雨被害」災害支援として、日本赤十字社に義援金を寄託
- ・「富士山の森づくり」開始
- ・「平成30年北海道胆振東部地震被害」災害支援として、日本赤十字社 北海道支部に義援金を寄託

2019

- ・「令和元年台風第19号被害」災害支援として、日本赤十字社・埼玉県・栃木県に義援金を寄託
- ・「令和元年10月25日からの大雨被害」災害支援として、千葉県にホンダ製品(高圧洗浄機)寄贈
- ・NHKエンタープライズ・科学技術館主催「小学生ロボコン」特別協賛開始
- ・ホンダブランド車いすレーサー「翔 KAKERU」発表

2020

- ・「新型コロナウイルス感染対策」支援として、義援金を寄託
- ・「コロナ感染者を搬送するためのホンダ車両(仕立て車)」168台を自治体に提供。フェイスシールドを生産し、自治体を通じて医療現場へ寄贈
- ・インド ホンダグループ企業の製造工場がある州の中央政府および州政府の救済基金へ公共エリア消毒用のホンダ製品(動力噴霧機)寄贈、義援金を寄託
- ・米国・カナダ・メキシコ フードバンクや食事プログラム、医療関係団体へ義援金を寄託
- ・ベトナム ベトナム祖国戦線中央委員会へ義援金を寄託
- ・車いす陸上競技選手支援開始
- ・「令和2年7月豪雨被害」災害支援として、ホンダ製品(高圧洗浄機、発電機)、感染予防衛用品を寄贈、日本赤十字社に義援金を寄託
- ・コロナ禍に夢の力を10代に伝える「The Power of Teen」実施
- ・八王子上川の里 里地里山保全活動開始

2021

- ・「7月1日からの大雨被害」災害支援として、ホンダ製品(高圧洗浄機)寄贈、日本赤十字社に義援金を寄託
- ・「中国河南省洪水被害」災害支援として、ホンダ製品(パワープロダクツ)寄贈、河南省赤十字会・河南省慈善総会・鄭州市赤十字会へ義援金を寄託
- ・「8月11日からの大雨被害」災害支援として、ホンダ製品(高圧洗浄機)寄贈、日本赤十字社に義援金を寄託
- ・ハローウッズ 栃木県の「体験の機会の場」に認定

2022

- ・「ウクライナ情勢」を踏まえた人道支援として、日本赤十字社に義援金を寄託
- ・ピーチクリーン活動15周年×ホンダ太陽40周年企画 障がい者参画「ピーチクリーンユニバーサルプロジェクト」実施
- ・全国の高専学校への「エキスパート講師派遣」開始
- ・「生物多様性のための30by30アライアンス」に参画